

教祖のあたえる心、次代につなごう！



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

貴方への手紙 (325)

大教会の桜が満開を過ぎた日は5月10日。もっと花を楽しみたいところです。

連日コロナ禍の報道は溢れ人の心は陽気ぐらしと反対に向かいそう。しかしこんな時いかに感謝し喜べるか？と我が胸に問いかけます。

自分だけではない。今どなたもご苦労されているのです。仲間です。医療の現場では命がけの奮闘を続けておられます。まだまだ自分は生ぬるいところに居ることを感じています。

ところで私は今、日常の合間に妻が会長の札美分教会に通い片付けや清掃を楽しんでいます。良い運動です。やはり24歳からの12年間、幌都分教会長の頃を思い出します。

若かったあの頃！
今は気持ちだけ若い72歳！
これから何ができるか？
空想すると楽しくなります。

過去を振り返るとご守護に感謝しかありません。しかし物足

お知らせ

六月月次祭 6月15日(火) 9時30分開扉献饌
祭典の様様をライブ配信します
七月月次祭 7月15日 世話人・喜多秀和先生巡教

りない自分がたくさん見えるのでまだ思い出さないようにしています。

大教会長を辞したら部内会長配偶者としてつとめます。おもしろいでしょうか？

さて6月26日夕張大教会長交代の日へと向かう今の状況をお知らせします。

私は去る4月25日おちばで真柱様にご面会。9月4日の奉告祭についてご相談させて頂きました。

私からは「昨今の情勢から当日大勢の参拝を呼びかけることが難しい可能性があります。ついてはそのような時にご臨席をお願いすることの是非について思案し、ご相談に参りました。」と申し上げると、真柱様は

「今いろいろ状況が地域によって違い、こちらから行くことをどう受け止めてくれるかも違うと思う。しかしまだ先のことであり、オリンピックの後のこと。ワクチンなども出ているので状況が変わることもある。今から決めてしまわなくても良い

のではないかと思う。」と。

私は「ありがとうございます。ではまた改めてご相談させていただきます」と申し上げました。

あくまでも来て下さることを前提にお話をして下さっている！なんとというありがたい親心！と感激しました。

次回の相談は6月26日六代会長任命のお運び後に新任会長からご相談することになります。奉告祭実行委員会の皆さまには準備に向けて詳細を定めることが難しいとは思いますが心を合わせて事を進めてくださいますようお願いするばかりです。

昨年のお頭には思いもよらなかったことが突如起きて今、世界が大混乱の中にいます。その収束を誰もが願っています。始まりも終わりも予想できません。というところは、それも夢のように変化するかもしれませぬ。私たちはひたすら努力することのみを思います。後はご守護次第。人知を尽くして天命を待つ、の心境です。どうぞよろしくお願ひします。

四月月次祭の様

4月に入っても北海道は例年より高めの気温で暖かな春の息吹を感じられる日が続いた。一方で全国的なコロナウイルスの感染者も日増しに増加傾向にあつて、道内でも予断を許さない状況が続いていた。

祭典日の15日には、窓際に残雪が残るものの、暖かな春の風が吹く陽気となり、窓から入る換気の風も心地よく感じられる日和となった。

定刻の9時半より開扉献饌。祭文奏上のち、座りづとめ・十下りのておどりが務められた。

講話には3月に札幌分教会の会長に就任した、藤田美重子大

「去年の1月2日、夜に左足首の痛みに襲われ、足の裏からもすごい強い電気が頭の上まで登ってくるような痛みでどうすることもできないような状態になりました。正月休みで病院がやっておらず、1月6日によく診てもらおうと、手術しかないという事でしたが、その手術も3月にならないと受けられないという話でした。

コロナの関係で少し日は伸びましたが、3月に入って手術を

受けました。術後、すぐに転院しなければならず病院を移りました。キブスをするのですが、足が痛くて仕方がなく、痛み止めを飲んで駄目、筋肉注射して、ようやく寝ることができました。

この手術というのは、足首に何本かビスを打ち込んで足を支え、間に骨が形成されるのを待つ、というものなんです。中々良化していかない。骨が出来ないんです。ビスの位置がズレたといつては再手術、半年経過を見て骨が出来ていないとまた10月に再手術、都合三度手術を受けて、11月に退院してきました。ようやく先月の検査で『骨が付いてきた』と診断されました。

私は関節に身上を頂くんです。膝を手術してますし肘も、足首もしております。何を悟ったら、自分なりに考えたんですが、関節はつなぎですよ。つなぎ、というのが自分には何も出来ていなかったのではないかと考えるようになりました。

そんな中、昨年2月頃、大教会長さんから『札幌の次の会長に』という話があつて、私が会長を継がせてもらう事が、神様が一番喜んで下さるつなぎになるな、と思いました。任命講習

やお運びの事を考えると、不安や心配は尽きませんでした。『何とかなるさ』という会長さんの声に励まされて、講習に参りました。任命講習には美由紀ちゃんが付けてきてくれて、毎朝毎晩、送り迎えをしてくれました。私以上に大変だったんじゃないかと思えます。お陰もあつて無事に講習も修了し、26日にはお運びに参りました。お運びも、本来であれば正座してお受けするのですが、私の足では出来ない、足を横に伸ばして座らせて頂きました。それ自体も難儀な事でしたし、失礼のないように座ったり立ったりの練習をして参りました。当日には役員先生や会長さん方が無事にお運びが済むようにと、付き添いや送迎など様々に心配りをして下さり、お陰をもつてお許しを戴きました。



お許しを戴いた時に、『にんげんの心をもうよぶな事 月

日わなにもゆうてないそや』(七号107)とおふでさきの一節が心に浮かんできました。この年で、足の身上の事もあり、何が不安に思っていました。しかし、お許しただけだったから、神様は教会長として使つて下さるつもりである。人間思索をひとまず置いて、出来る事からさせて頂こう、と思いました。まずは札幌でしっかりおつとめをさせてもらおう、ということが一番大事だと思います。

無事に札幌の会長になる事が出来ましたが、私自身札幌がどういう教会で初代会長の阿部美子さんがどう通つてこられたのか、あまり知りませんでした。これはまず、わからせてもらわなきゃいけないと思ひ、夕張の道を読みました。阿部美子さんは大正13年1月12日に生まれ、現在97歳です。父親は徳島で金物商をされていて、母親は撫養大教会の信者で、月次祭は欠かさず参拝され、美子さんも一緒に参拝されていたそうです。

19歳の時にお母さんが出直されて、その一年後美子さんが盲腸炎腹膜炎すい臓炎を併発しました。医者の手余りと言われ、食べられず水も通らず眠られない、緑色をした液が口から出る

日が続いていました。そんな状況の中、別科を出ていたお兄さんが撫養に日参をして、吉成よね先生におたすけをお願いしました。吉成先生は駅三分の距離をおたすけに通ってくれました。父親は、医者が無理だと言つているんだから、拜んでもらつても助かるわけない、と言つていたんです。ところがおさづけを取り次ぐ内に段々と御守護頂き、嫁入り道具の衣装代を全部お供えしたいと父親が言つたところ、吉成先生は『それよりも修養科へ入りなさい』と勧められた。

二十歳の時に、まだ歩けない中お兄さんにおぶさつて修養科第38期に入学されています。そして、入学して10日目で歩けるようにご守護ただかれてるんです。喜びいっぱいそのまま修養科生活を送り、修了後もおちばに住みたいということで教庁教師課に勤務する事になりました。その後、阿部吉夫さんと結婚する為、25歳で四国から北海道へ渡ってきました。まもなく美子さんは心臓病に罹り、吉夫さんの所属する幌向分教会に住み込み、西尾キ工会長様からお世話取りを頂いて、ひと月ほどで身上はご守護頂きます。それから一年半幌向に住み込み、引き続

いて夕張分教会にも住み込みました。その後、吉夫さんの就職と共に札幌へ移り住みました。

今朝、美子さんに話を聞いたんですが、どんなにをいがけをしていたかと聞くと、パンフレット配りしただけで大した事なんかしてない、と。それも出来ずに一日中ベンチに座って終わった日もあったと。そんな中でもコツコツとをいがけを続け、おたすけする方が出来ました。その方は歩く事も出来ないう程の状態でしたが、その方と一緒に修養科に入る事になりました。すると一週間でその方が伝い歩きができるようになって、3ヶ月経った時には杖をつけて歩けるまでにご守護いただきかれていますね。しかし、北海道へ帰るとその方は信仰を辞退する、といつて来なくなりました。そして一年後に直直されたんです。泣くに泣けない気持ちだった、との事ですが、自分の身上はすつきりご守護頂いたんです。おたすけって大事なんだね、人助けたら我が身助かるっていうことなんだね、と述懐していました。

色々な思いをしながら、札幌の街を10年間にをいがけに歩き、昭和40年に札幌布教所を設立します。その3年後には増平会長

から教会設立の普請をするように言われ、翌44年10月27日に阿部美子さんを初代会長に、札幌分教会の設立をお許し戴きます。今、札幌分教会も創立して50年を経過していますが、そうして通られた美子さんのをいがけの種ってというのは、そここに蒔かれていくんだらう、と思うんです。これから先、それらの種が芽が出て喜びの花が咲く日が来るんだと思っています。

改めて、自分にどれだけの事が出来るのか分かりませんが、成ってくるのが天の理と受け取って、人助けたら我が身助かるとの教えを心において、陽気ぐらしを目指してまあいい心で明るく通らせてさせて頂きたいと思えます」と語った。

大教会長は挨拶で「心構えが大事ですね。ある人が、心構えとは心が前なんだ、これからやろうかっていう気持ちで心構えだ、と仰っていました。お互いに前向きな気持ちで、今からこれやれるぞ、という心構えで通っていききたいものです。

おちばでは毎月1日の正午に、コロナ収束のお願いづとめをされる事になりました。内統領先生からは、それぞれの教会でも同じ時間におつとめをして頂けるとありがたい、という話があ

りました。大教会でも今月から始めました。現在はまだまだコロナウイルスの収束には程遠い状況ですが、ワクチンの接種が進んでいる国では少しずつ経済活動が再開されているニュースが入ってきています。我々もその時を楽しみに過ごしたいですね。

5月、6月は私が祭文を読ませてもらいますが、7月はもう次の会長なんです。7月は喜多先生にお越しいただいて、9月のような感じでお迎えする、という事です。現在、実行委員会が奉告祭の進め方について、よく検討しております。また少しづつご連絡いたします」と話された。



暮らしと信仰

止められない火の力

北海道では、3月まで大雪の日があり、東北でもかなりの雪だったと聞くが、

一方、関東地方などは、上州名物「かかあ天下とからつ風」と言われる乾燥した風が吹いた。

火の勢いには、風がつきもので、その風のために、栃木県足利市では山火事が2月末から3月半ばまで、20日間以上も続いて300世帯が避難し、約106ヘクタールも焼いた。おちばの親里やかたの中が、約64ヘクタールなので、すごい広さである。それが、ポイ捨てのタバコのせい、とも言われているので、憤懣(ふんげん)やるかたない。

アメリカのカルフオルニア州の山火事は毎年大規模で、ひどい時は11万ヘクタール・東京都の半分を焼いている。世界では昨年7月のオーストラリアの西南部の山火事は史上最悪と言われて、広い国土の森を1%も焼いたという。これはポルトガル一国まるごとになり、ユーカリというコアラの食べる木を焼いたので、その一帯のコアラとカンガルーを絶滅させるほどの、森林火災だった。これらは、地球全体の環境を悪化させたり、温暖化の要因になり、気候変動を起こす。それが、人為的な発火原因とかもあり、驚くばかりである。

振り返って、江戸時代の花の都の大江戸の町は、「火事とケンカと犬のクソ」が名物で、享保の8代将軍・吉宗が、町火消48組という消防団を組織して、当時世界一の100万の江戸っ子の命を守った。当時は庶民の家は板葺きが多く、すぐ燃え移るので、水で火を消すのじゃ間に合わない。そこで、トビロヤカケヤといった建物を壊す道具でもって、類焼を防ぐのだった。火事が頻繁だったので、大店は火事に遭ってもすぐに商売が始められるように、次の材木を用意していたようである。

昔の我が教会も、お向かいの風呂屋が燃えた時に、桎(くわ)ぶきの屋根だったので、屋根根が上がって水をかけて、火の粉から守ったのだが、手押しポンプの水で、よく消せたと。現在は消火器、火災報知器があるが、形には見えない、心の擦れ合いを、まず、収めて通りたい。



渡部秀松・詰所主任 退任あいさつ

平成13年7月13日から今日まで約20年に渡り、おやさまにお引き寄せ頂いておそば第128母屋夕張詰所に、妻と共に伏せ込ませて頂くことが出来ました。ごばに伏せ込んだなら八方に根を張らすとの言葉通り、子や孫をはじめ、その身内や縁者の人々、知人に至る多くの人々からなる今日の繁栄は、実にありがたく、喜びと楽しみの毎日でございます。この上は、その子や孫の働きを、親神様がお受け取り下さり、陽気遊山の世界へとお導き下さる事を願って止みません。

詰所在住中には、日本中の高校生のお宿をはじめ、中国、韓国、インドネシア、ブラジル、スリランカ等、遠く海外の人々にも滞在を頂き、詰所講堂にて神様のお話をお伝えさせて頂いたこともありました。

昨今の世の様も、色々と都合の良いことばかりではありませんが、どんな中も親神様にもたれて、日々をよろこび勇んで通らせて頂くことが大切でありましょう。ごばに帰り来る人々を、我が子の様にお迎えさせて頂き、

一心に通らせて頂いた20年の道中、大きな親心でお導き下されたおやさまに御礼申し上げますと共に、ご支援を下さいました皆様様に深く御礼申し上げます。令和3年5月10日



詰所主任紹介

新任 藤田 好道 役員



5月1日よりおちばでつとめています。どうぞよろしくお願います。

就任奉告祭

ひのきしん開幕

9月4日の六代会長就任奉告祭まで、あと半年を切り、5月の1日・2日・8日・9日と

有志の方で、去年の落葉や豪雪で折れた枝等を熊手や箕を使って集め、神殿周りの窓も一枚一枚丁寧に拭きあげた。昨年暮れに倒した裏の木々は、青年会が主になって新材にするべく作業を行った。栗山の信者さんから



お借りしたエンジン式の薪割り機を始動させ短く切った丸太をどんどん割った。まだまだかかるが、作業分担の流れが出来て見通しがたつてきた。

その日以外にも、4月後半より個人や教会で内外の清掃ひのきしんに来て下さいまして有難うございます。コロナ禍の中、一堂に会してのひのきしんはなかなか出来ませんが、これからもお心寄せの程よろしくお願いたします。



『少年会夕張団 よりお知らせ』

◆天理時報などお知らせの通り昨年に続き、今年もごもおちばがえり中止が決定されました。参加を楽しみにしていた皆さん、残念ですが、来年はコロナが収まり、開催されることを願っております。◆教祖誕生祭に、各家庭でケーキのお供えや作品を作って毎年お祝いされている方が居ると思います。今年は映像や写真をお寄せいただきましたので、表紙に紹介させていただきます。みなさんありがとうございます。

◆9月下旬に夕張団総会の開催を目指して準備企画中です。状況を見ながら総会の形を決定し、呼びかけをいたしますので、よろしくお願いいたします。



庶務部 4月

▽教会長資格検定講習受講 4・27

梶川 文吾(新生生)

▽三日講習会I講師 4・6〜8 齊藤 智明(南幌)

▽夕張詰所主任

前任 渡部 秀松(善進道)

新任 藤田 好道(幌都)

▽詰所教養掛

4月 富山 知一(栗山)

5月 千葉 祐生(大龍)

大教会日誌抄4月

1日 たすけ推進会議

3日 会長、上富良野分巡教

5日 会長、清真布分巡教

7日 会長、旭都分巡教

8日 会長、長沼分巡教

10日 会長、祝梅分巡教

14日 月次祭準備

15日 月次祭

17日 会長夫妻、おちばへ

18日 教祖誕生祭

20日 会長夫人、帰会

24日 会長、関東方面講社祭へ

26日 会長、本部神殿当番

27日 本部月次祭

28日 遙拝式

29日 会長、かなめ会

29日 国道みまもり隊ゴミ拾い

29日 会長、帰会

29日 全教一斉ひのきしんデー